

地質標本館の来場者 アンケート分析 (2023 年度)



孔雀石 Malachite
コンゴ民主共和国
GSJ M40332

地質標本館の来場者
アンケート分析
(2023年度)

2025年4月

国立研究開発法人 産業技術総合研究所
地質調査総合センター 地質情報基盤センター

要旨

地質標本館におけるアウトリーチ活動のPDCAサイクルの構築(特にCA)を進めるため、2023年度に地質標本館で集積した特別展・企画展、及びそれらの間の常設展示に関する入館者から回収した無記名アンケートの分析を行った。この分析は毎年度毎に実施していたが、2019年末から発生した新型コロナウイルス感染症(以下、コロナ)の影響で、休館や予約による人数制限を実施し、2022年度途中から制限が解除され通常の開館となった。2023年度は通常開館を1年通じて行い、館内イベントも再開することが出来た。アンケートの回収も増えアンケート分析を通して、地質標本館に対するユーザーのニーズを把握するとともに、その結果をもとに今後のアウトリーチ戦略策定の基礎材料としていく。

分析項目は2016年度途中から始まった項目を継続している。大まかには、来館者自身に関わる情報(年齢、居住地など)、館内展示に関する情報(展示内容、展示設備など)、館内環境に関する情報(空調、照明など)、解説サービスに関する情報(見学案内、QRコードなど)、及び全体的な感想などからなる。

展示や館内環境に対する満足度は、コロナが明けても概ね高い評価を得ている。興味を持った展示は、鉱物、化石、地震、火山、活断層などが例年同様に多い。改善要望は館内環境の改善、わかりやすい解説を求める声が比較的高い。現在改修が徐々に進められているが、コロナの影響で行っていた展示物などの接触制限が解除され、通常見学に戻ったことで好意的なコメントが多くなった。

これらの要望と今後の対応策に関する情報は、引き続き地質調査総合センター(以下、GSJ)のアウトリーチ拠点としての地質標本館の運営・施設改修へつなげるための一次データとして利用する。

1. はじめに

本報告は、地質標本館に来館された方々からアンケートへのご協力をいただき、2023年度分について取りまとめたものであり、基本的には前回までの報告（地質情報基盤センター、2016a, b, 2017, 2018, 2019, 2020, 2023）に沿ってデータ集としてまとめている。一方、一般向けにはGSJ地質ニュースに取りまとめたものを報告している（森尻ほか、2015, 2016, 2017；辻野ほか、2018）。技術資料集での取りまとめの目的は、前報告書に記したとおり、地質標本館におけるアウトリーチ活動のPDCAサイクルの実施（特にCA部分；評価と改善）である。

アンケートはWeb方式（Microsoft365 Forms）で行っている（2020年9月に紙からWeb方式に変更）。今まで指摘して記しているように、回収されたアンケートに書かれたコメントは必ずしも全来館者の平均的な感想とは言えないことを前提として分析する必要がある。しかしながら、アンケートに記されているコメントは、ユーザーのニーズを知るための貴重な一次情報であると認識した上で本報告をまとめた。これまでの報告を含めて、今後、「地質標本館のニーズ分析」、「展示企画立案」、「地質標本館グッズ開発」等へ活用し、そしてアウトリーチ活動に関わるGSJの各研究部門の研究者にフィードバックすることで、一般向けの展示物作製やその他の研究成果普及活動の後押しとなることを期待する。併せて、今後のGSJのアウトリーチ戦略策定の基礎資料になるものと思われる。

2. アンケートの取りまとめ

当該期間における地質標本館での特別展示（第1表）は、GSJ連携推進室国内連携グループが主導し、地質標本館室との調整をしながら実施されている。

取りまとめの方針は、当該期間におけるアンケートの項目（第2表）の集計及び来館時の受付で記入いただいた項目（第3表）を使用することで、「一般の人から地質標本館に求められているもの（ニーズ）」、「展示企画立案」、「地質標本館グッズ開発」等に関する情報を抜き出し整理した。それらを図示し、前報告書と構成も含めて視覚的に対比できるようにした。

第1表 2023年度特別展・企画展

展示時期	タイトル
2023年4月25日-9月3日	地質標本館 特別展「地中熱～あなたの足元に再生可能エネルギー～」
2023年10月3日-12月24日	地質標本館 企画展「生痕化石」
2024年3月5日-4月21日	地質標本館 特別展「GSJのピカイチ研究-2023年のプレスリリース等で発信した成果より-」

第2表 アンケートの内容

地質標本館について

1. 地質標本館はいかがでしたか。
①満足 ②やや満足 ③やや不満足 ④不満足
2. またご来館いただけるでしょうか。
①ぜひ来たい ②できれば来たい ③来るかもしれない ④もう来ない

お客様ご自身について

3. 「性別」 ①男 ②女
4. 「年齢」 ①18歳以下 ②19～29歳 ③30歳代 ④40歳代 ⑤50歳代 ⑥60歳代以上
5. 「お住まい」 ①つくば市内 ②茨城県内（つくば市以外） ③茨城県外

今回のご来館のきっかけとなるもの

6. 今回のご来館のきっかけとなったものをお選びください（複数選択可）
①地質標本館公式ウェブページ ②地質標本館以外のウェブページ ③産総研 Twitter
④その他のSNS ⑤ポスター ⑥その他
7. その他を選択した方は、そのきっかけとなったものをお知らせください。

ご興味を持った展示テーマ

8. ご興味を持った展示テーマをお選びください（複数選択可）
①鉱物 ②化石 ③岩石 ④地震 ⑤火山、温泉 ⑥資源、環境 ⑦地学一般 ⑧その他
9. その他を選択した方は、興味を持たれた展示テーマをお知らせください。

展示物について（各々4段階で回答）

10. 展示の仕方や表示方法（パネル、ラベル等の説明）はわかりやすかったですか。
①満足 ②やや満足 ③やや不満足 ④不満足
11. 自由意見（展示の仕方や表示方法について）
12. 展示機器（ボタン操作等）の使い勝手はいかがでしたか。
①満足 ②やや満足 ③やや不満足 ④不満足
13. 自由意見（展示機器の使い勝手について）

建物やサービスについて（各々4段階で回答）

- 14. 受付の対応はいかがでしたか。
- 15. 館内案内の表示はわかりやすかったですか。
- 16. 自由意見（館内案内の表示について）
- 17. 館内の明るさはいかがでしたか。
- 18. 自由意見（館内の明るさについて）
- 19. 館内の空調の温度設定はいかがでしたか。
- 20. 自由意見（空調の温度設定について）
- 21. 展示物、展示室、トイレ、洗面所及び通路の清掃は行き届いていましたか。
①満足 ②やや満足 ③やや不満足 ④不満足

利用した解説等のサービスについて（各々5段階で回答）

- 22. 説明員の解説
- 23. QRコード解説
①満足 ②やや満足 ③やや不満足 ④不満足 ⑤利用していない
- 24. 自由意見（利用した解説・サービスについて）

特別展について

- 25. 今回の特別展を何で知りましたか。
①地質標本館ウェブページ ②地質標本館以外のウェブページ ③産総研 Twitter
④その他の SNS ⑤ポスター ⑥知らなかった ⑦その他
- 26. その他を選択した方は、何で知りましたか。
- 27. 特別展をご覧になっていかがでしたか。
①満足 ②やや満足 ③やや不満足 ④不満足
- 28. 自由意見（特別展について）

当館へのご希望、ご意見

- 29. ご自由にお書きください。
(例) 展示、ミュージアムグッズ、イベントの感想、ご要望など。

第3表 受付時記入項目

人数	地域別	区分（職種）	来館回数
----	-----	--------	------

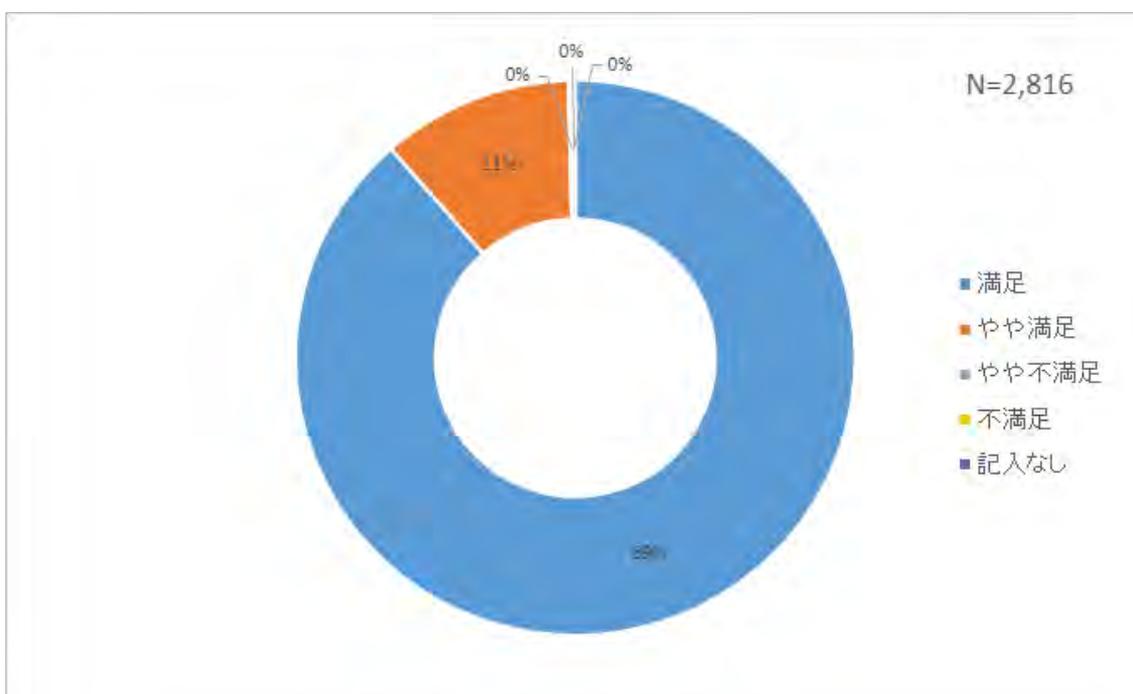
3. アンケート内容の分析結果と個別対応案

アンケートの回収数は、期間内の総計は 2,816 件である。2023 年度の来館者数が 51,360 人（過去最高）であるので、約 5.5%の回収率になる。なお、この間の団体入場者は 11,814 人で全来館者数の約 23 %を占めている。団体客や学校単位での来館においては、来館者の見学時間を確保するために、引率者のみにアンケートに回答するようお願いしている。

以下、アンケート内容（第2表）の順に沿って、各項目の集計結果を見ていく。

3.1 全般的な満足度

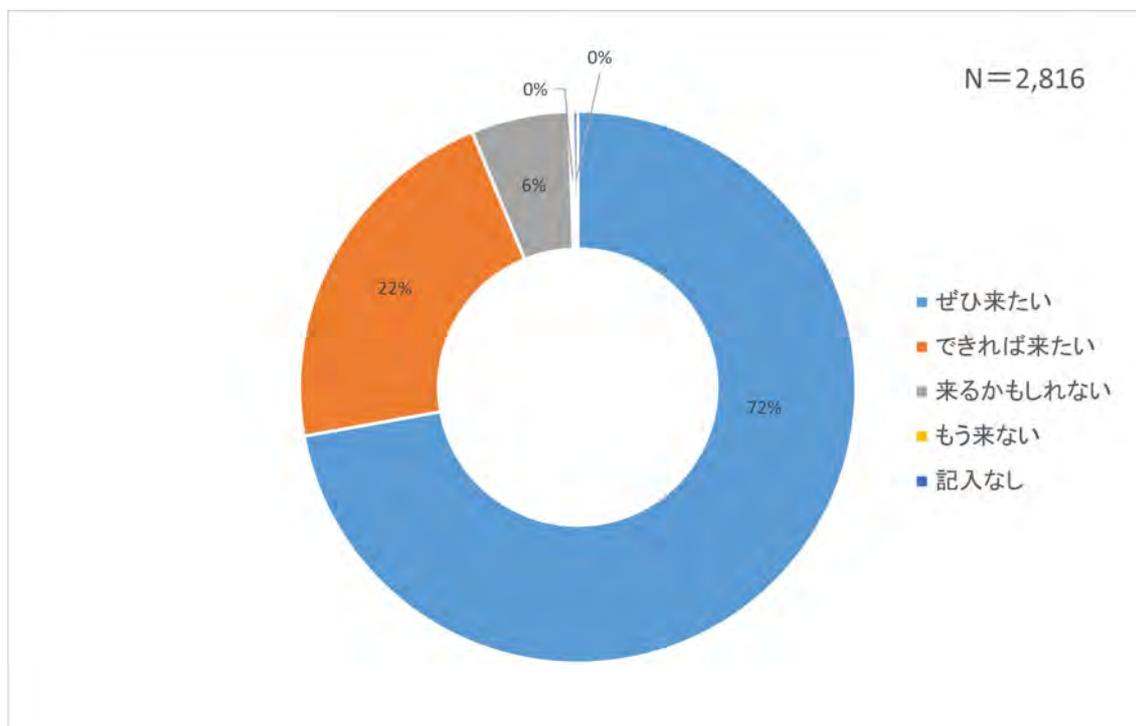
最初に、来館された方々が館内で感じたことについて見てみる。まずは館内での見学全般を通してどう感じていただいたかという質問である。回答を見ると、大半が満足とあり、やや満足を含めると回答を記入していただいた方の 100 %が満足という結果となった（第1図）。昨年はコロナによる展示操作制限等があったが、不満につながる要因より満足を感じていただけたようである。



第1図 満足度（館全般）

3.2 満足度（次回への期待度）

また機会があればご来館いただけるかどうか（次回への期待度）の質問に対して、回答を記入いただいた方の94%が「ぜひ来たい」、「できれば来たい」の積極的な回答、6%ほどの方が「来るかもしれない」で、「もう来ない」「記入なし」は0%であった。



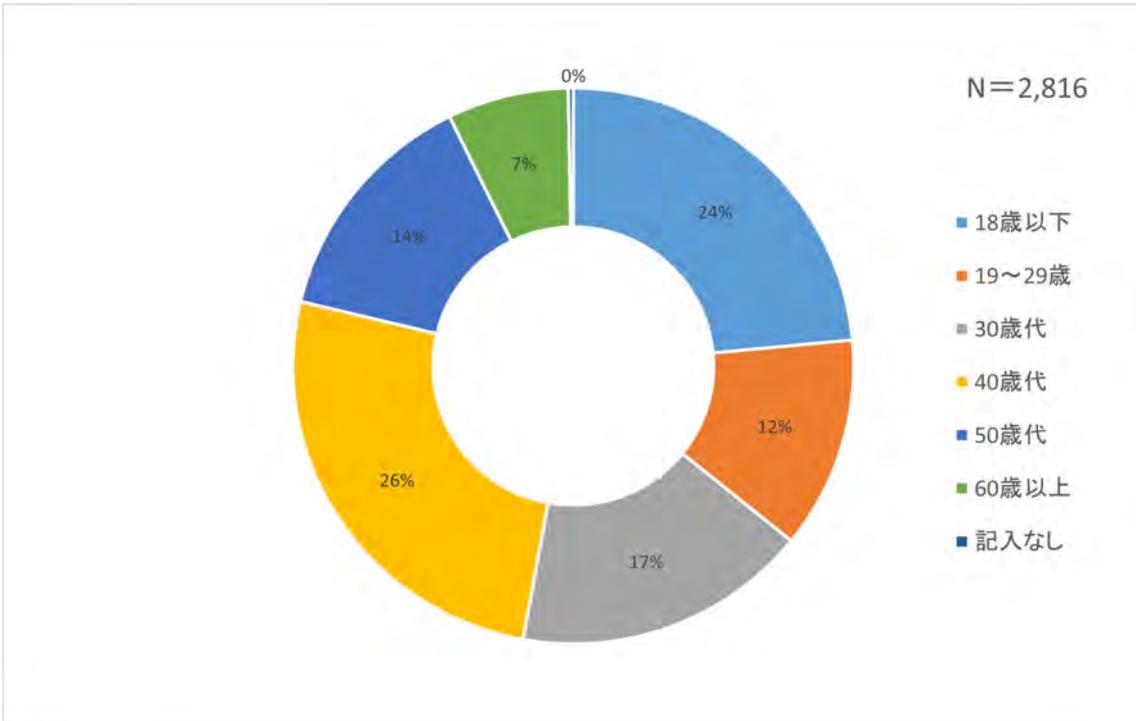
第2図 満足度（次回への期待度）

3.3 回答者の年齢層・居住地

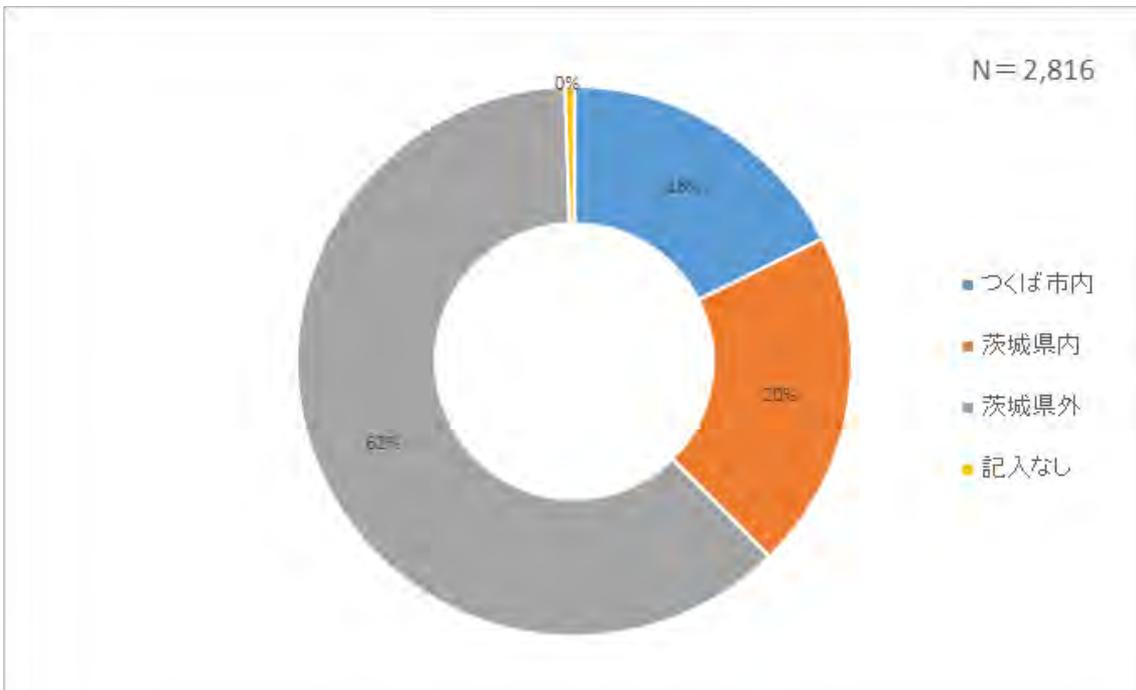
回答者の概要を考える参考として、年齢層と居住地をしてみる。

回答者の年齢層（第3図）の傾向を見ると、以前同様に40歳代が一番高いのは変わらないが、18歳代が2番目に高く30歳代までで半数を超える結果となった。40歳代以上が減少していると考えより30歳代までの回答が増えたと考える。コロナの影響でアンケートを紙からWeb方式とした成果が出て来たものと思われる。

居住地に関連する情報（お住まい）を見ると、これまでと同様に茨城県外が多数を占める（第4図）。東日本大震災以降、茨城県内からの来館者の割合は伸び悩んでいるが、来館者数が伸びていることを考えれば、人数は増加していると思われる。問題はつくば市内の割合が、前年度比4ポイント減となっていること。市内にある気軽に利用できる施設として来館してもらう検討が必要と考える。



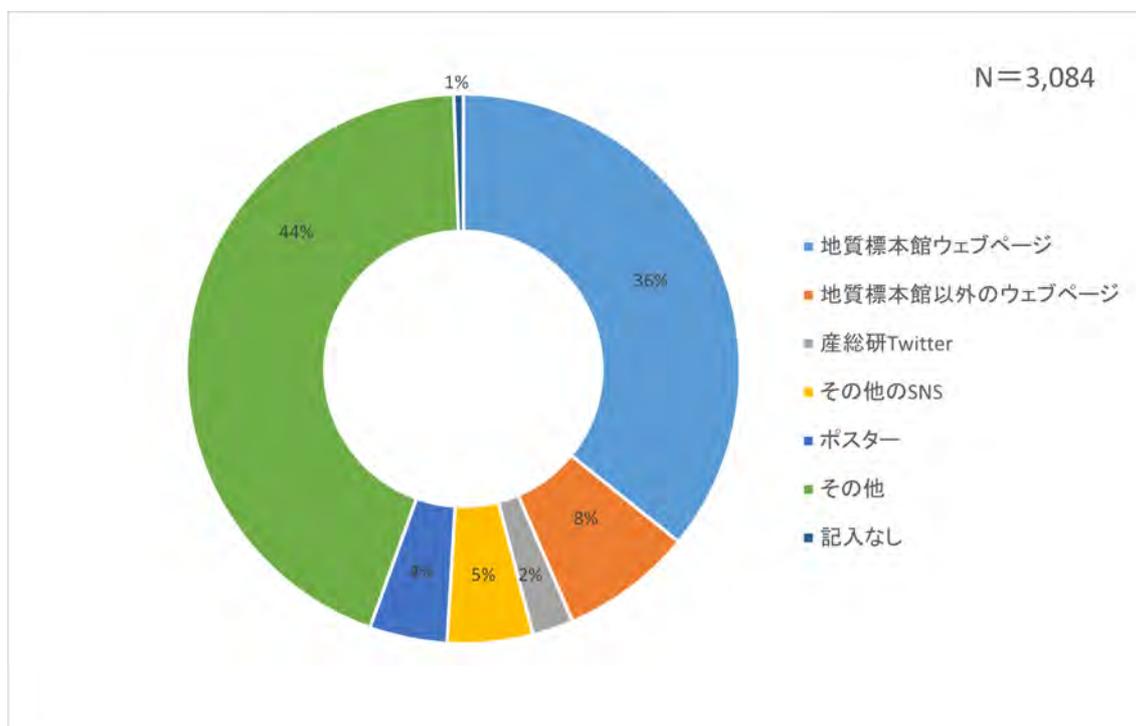
第3図 年齢層



第4図 居住地

3.4 来館のきっかけ

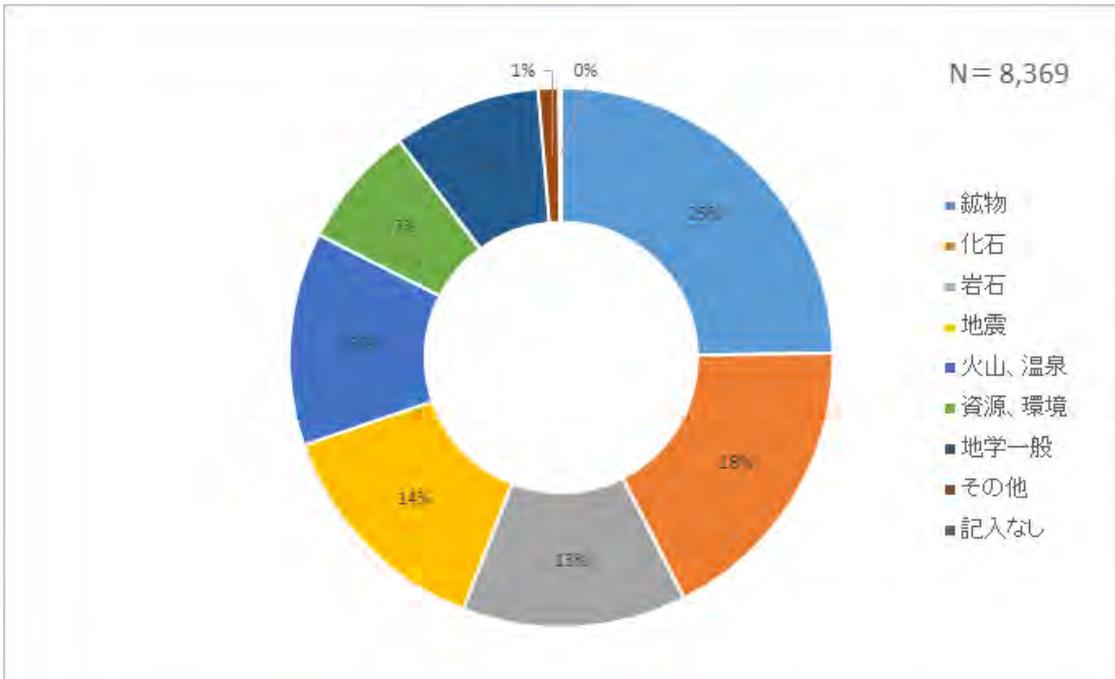
特別展示やイベントの案内は地質標本館のウェブページや産総研の公式 X (旧 Twitter) などで行っている。2023 年度はコロナの影響で中止していた館内イベントを再開し、それまで行っていた、つくばエキスポセンターなどつくば市内および近隣の公共施設への告知ポスター掲示依頼、近隣の学校などへのチラシ配布を再開した。第 5 図から、産総研 X (旧 Twitter) やその他の SNS の割合が増加、インターネットが 5 割を超えて伝達手段として主流となってきたことがわかる。ただし、従来型のポスター・チラシは、関心がない人々にもイベント等を知るきっかけとなり得るし、学校への配布も継続するべきである。「その他」の割合が依然として大きいのは、学生が学校の行事で来館した場合や、近くに来たので立ち寄ったという方もかなり多いと考える。



第 5 図 来館のきっかけ

3.5 興味を持った展示テーマ

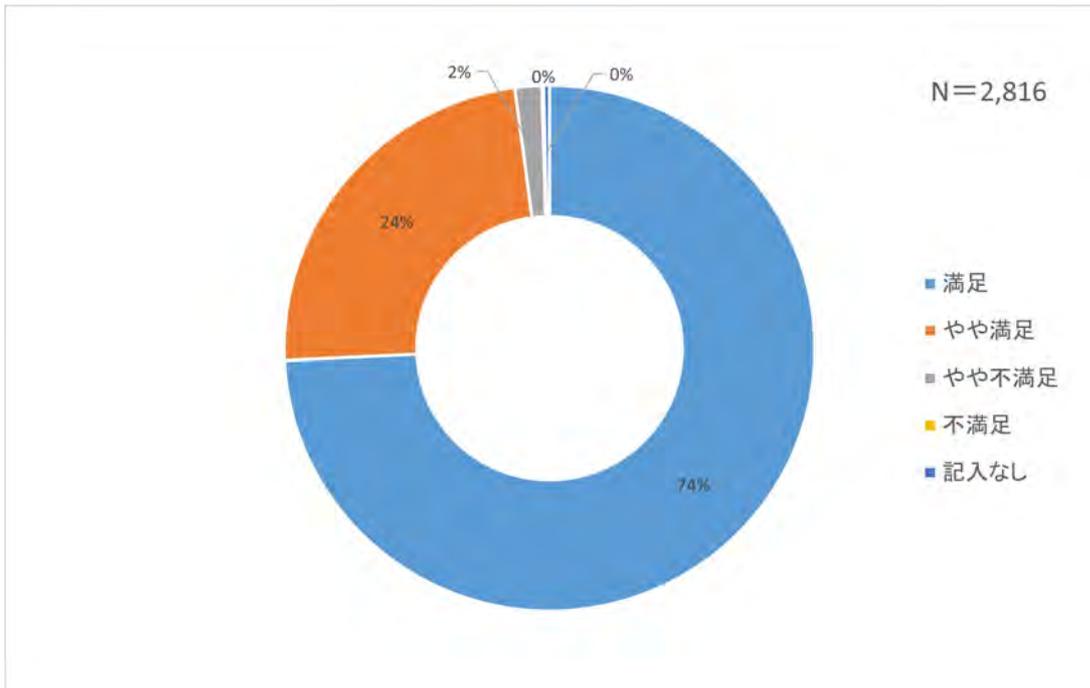
ここでは、「興味を持った展示テーマ」を、その他を含めて 8 つのキーワードでの選択式として、複数回答可とした。集計結果は第 6 図に示す。その他として回答のあったものに、記入式で具体的な展示物などを書いていただいた。例年同様に鉱物が人気となっているが、それ以外のテーマにも興味を持っていただけていると思われる。特別展・企画展・イベント等が再開され、地中熱や化石にも興味を持ってもらえたようである。



第6図 興味を持った展示テーマ

3.6 展示物について（展示の仕方、表示方法）

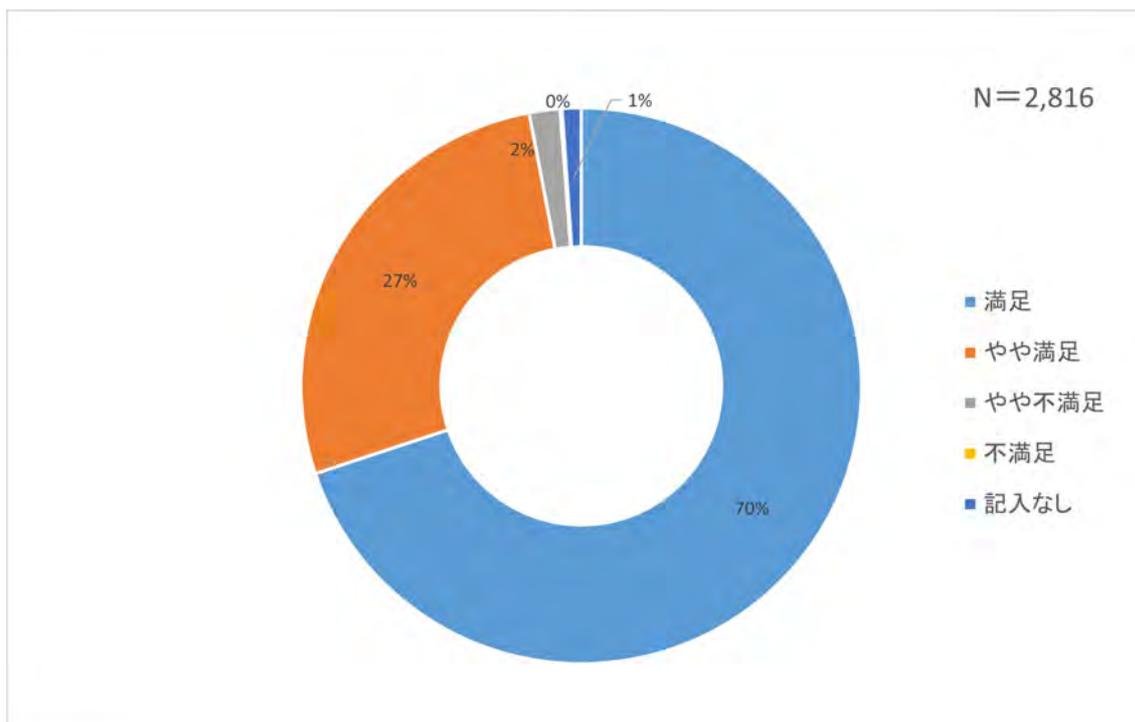
展示の仕方、表示方法について、①満足、②やや満足、③やや不満足、④不満足の4段階で回答をしていただいた。集計結果は第7図にあるように例年度同様概ね満足のようなのである。コロナによる制限が解除され、触れる展示を再開したこともあり、満足度が微増となった。



第7図 展示物について（展示の仕方、表示方法）

3.7 展示物について（機器の使い勝手）

機器の使い勝手については、①満足、②やや満足、③やや不満足、④不満足の4段階で回答をすることになっている。集計結果は第8図に示す。コロナで非接触だったものが解除されたことで、満足が大きく伸びる結果となった。上記の「3.6 展示物について（展示の仕方、表示方法）」も含めて、それぞれの項目に自由意見欄があるが、ここでの記述があれば集計・分析においては後述の「3.9 ご意見、ご要望」で取りまとめることとしている。



第8図 展示物について（機器の使い勝手）

3.8 解説案内・QRコード解説

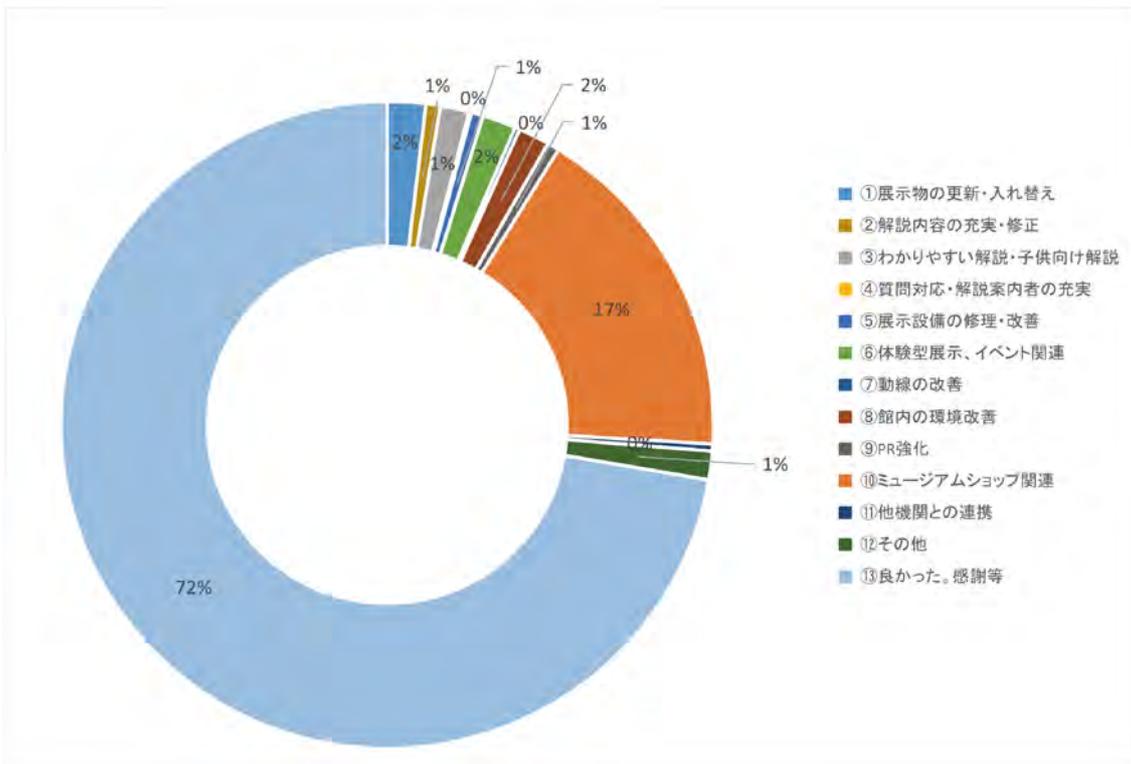
地質標本館として提供している解説サービスには、(1)スタッフによる予約団体への説明解説、(2)スマートフォンやタブレット利用によるQRコード解説システムがある。これも①満足、②やや満足、③やや不満足、④不満足の4段階での回答となっている。自由意見欄については、集計・分析は後述の「3.9 ご意見、ご要望」と合わせて取りまとめる。回答総数2,816件のうち、解説サービス利用は、解説案内1,975件、QRコード解説1,632件となっている。QRコード解説システムによる日英の文字及び音声解説もあり、利用された方からは良い感触を得ている。館内に公衆Wi-Fiが導入されたことで環境が改善された影響がある。

3.9 ご意見、ご要望

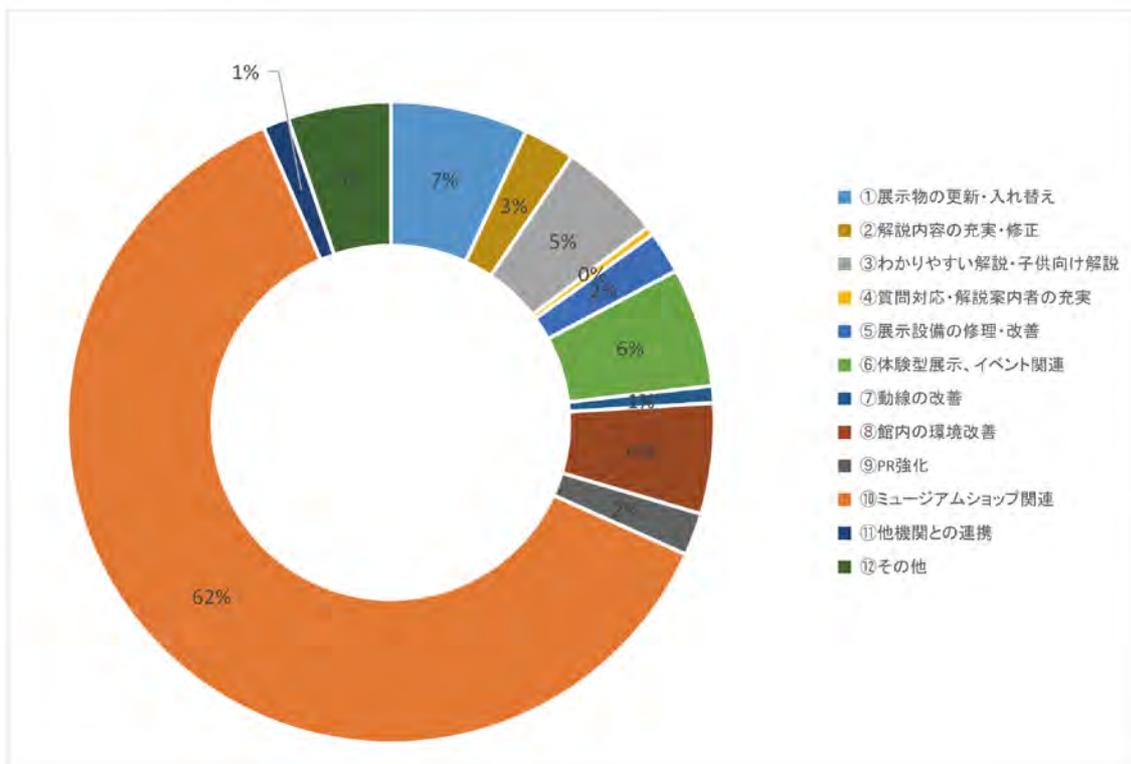
最後に自由記述で、全体のご意見、ご要望をうかがうこととしている。ここでの記述は、地質標本館に課せられた役割と照らし合わせながら今後の参考とするものである。

これまで、自由意見として寄せられた内容を、2015年度までの報告書（地質情報基盤センター,2016a）に従って以下の13のキーワードに整理してきており、今回もそれに沿って整理した（第9図）。一番多いコメントは、要望ではなく「良かった」という内容の意見・感謝等であった（72%：コメント有841件中608件）。特に館長が解説する「日本列島大型3Dプロジェクションマッピング」についてコメントが多く、好意的なコメント増につながっている。意見・要望で1番目に多いコメントはミュージアムショップ（地質標本館グッズに関係17%：コメント有841件中144件）であった。意見・要望に限定すると（第10図）ミュージアムショップ関連は全体の約6割を占めている。残りのコメントについてもそれぞれのキーワードと、その中で整理された意見について主だった事例を第4表に示す。

- ①展示物の更新・入れ替え
- ②解説内容の充実・修正
- ③わかりやすい解説・子供向け解説
- ④質問対応・解説案内者の充実
- ⑤展示設備の修理・改善
- ⑥体験型展示
- ⑦動線の改善
- ⑧館内の環境改善
- ⑨PR強化
- ⑩ミュージアムショップ
- ⑪他機関との連携
- ⑫その他
- ⑬良かった、感謝等



第9図 今後の展示内容の改善要望



第10図 今後の展示内容の改善要望

第4表 自由意見の中の改善要望

①展示物の更新・入れ替え	ダイナミックアースの映像が古いので新しくしてください
	火山のコーナーは、もっと新しくしてほしい。
	古生物の化石をもっと見たい
	鉱物の形状や色について化学的、物理的な観点から学べるような展示があると嬉しいなと思いました。 フォッサマグマについて詳しい展示を見てみたいです
②解説内容の充実・修正	ダイナミックアースのビデオが尺の割に内容が易すぎる
	QRコードの説明にてダウンロード時に画像データもスマホに残せたら思い出になりそうですね。標本を撮影するのも仲間と来たりすると忘れてしまいがちになるかと思いましたので書かせて頂きました。施設としてはとても素晴らしいと思います。ありがとうございました
	・館長さんの解説とても面白かったです。 ・鉱物が好きなので、鉱物の解説も増えてくれると嬉しいです。
	5歳の息子と初めて来ました。 子ども向けのイベントや館内のわかりやすい表記があると、より楽しめるのかなと思いました。 岩石を見分けたいと思って来たが、コツが分からなかった。せめて小中学校で教える流紋岩とか斑岩とか見分けるコツを教える展示物、あるいはブースが欲しい。 展示物が豊富で、興味深いのですが、途中で疲れてしまいました。 簡単なイラストなどで、ざっくりした説明を展示していただいて、詳しく知りたい方はQRコードで観るといった感じにしたいと、さらに楽しめると思いました。 低学年の子には難しい感じもあったのでふりがながあるといいなと思いました。 小学生の子供と来ました。パンフレットに振り仮名があるといいなと思いました。 初めて来ました。とても興味深いので、また来たいですし、周囲にもおすすめします。展示物の説明が充実していて大人は大満足である一方、小4以上くらいの子でも理解しやすい説明コーナーもあると、自由研究や自主学習で自力で大いに活用できると思います。 相談会の開催、素晴らしい取り組みだと思います！来年参加したいです。 これからも地域への貢献活動として、運営頑張ってください！ 子どもが興味を持てるような展示が増えるといいと思いつつ、今の展示の良さも残したいので、これは敷地が増えないと難しいですね。
④質問対応・解説案内者の充実	アンケート質問項目が多い 説明ガイドのスケジュールが知りたい 小・中学校の学科に資する内容では 好奇心刺激するプログラム考えては 入門から上級編みたいに分けて
	触れる標本がもっとあるとありがたい
⑤展示設備の修理・改善	鉱物の利用法や鉱物からの精製方法などが解説されるとオーケー◎
	5歳の子もボタンで「ここが光った家のところ？」など興味津々でした。ただ、映像、音声古いのでモニターはほとんど見ませんでした。そこが残念です。親としてはとても満足です。
⑥体験型展示、イベント関連	子供向けのイベントがたくさんあると良いです。
	スタンプラリーがあると楽しめる
	イベントをもっと増やして欲しい
	いろいろな展示を見ますので、今後も続けてください。特別公開の頻度増やしてください。
	探掘体験をしたい。
⑦動線の改善	体験イベントに子供を参加させたかったのですが、予約が満員ということで残念でした。
	企画展に参加したかったのですが、遠方より来館のため出来ず残念でした。次回タイミングが合えばまた参加したいです
	夏休みなど、子供向けのワークショップや実験などありましたら、是非参加したいと思います。
	夏休みなど、子供向けのワークショップや実験などありましたら、是非参加したいと思います。
⑧館内の環境改善	入り口入って順路が分からなかった
	基本的な順路があるとよかったです。
⑨PR強化	男子トイレの個室が狭いと思う
	先日富岡製糸場に訪問した際に、有名声優による音声ガイダンスがあってとても有益で楽しめた。地質標本館でも、(例えばアニメに取り上げられた『恋する小惑星』の声優さんに依頼するなどして)QRコード読み取り式の音声ガイダンスがあるとより親しみやすくなりやすくなると思います。
	重い荷物を持っていたのでコインロッカーはありがたかったです。自販機は現金以外も使えるといいかもしれません。
	軽食で良いので、少しゆづり出来る所があれば、もっと時間をかけて見学できるかと思えます。また、来館させて頂きます。ありがとうございました。
⑩ミュージアムショップ関連	こちらの施設存在を最近まで知りませんでした。 県外の施設などへ周知させてほしいです
	天災が多い日本において、とても貴重な標本館だと思います。 もっと世に知れるといいですね。
	友人に教えてもらうまで知らなかったのもっと国際的に多言語でPRしたいと思う。
	地質調査の重要性をもっとアピールしても良いかなと思いました。
⑪他機関との連携	さらに多様なミュージアムグッズがあればいいなと思った。
	ルーベやハンマーなど地学系のグッズも欲しいです
	グッズの量はやや少ないのでは…と個人的に思いました。
	ショップを広くして欲しい
	ミュージアムグッズの種類が増えたり、関連書籍も販売してくれたらうれしいです。
	グッズはマニアックでとても魅力的です。今後も楽しみにしています。
	グッズがコアで、変にキャラ化をしていないのが毎回好きなので、これからもそのような雰囲気をお願いします。
カレンダーは毎年楽しみにしています せっかく来たのでグッズは期待してしまふ。冊子など資料もほしい。	
⑫その他	Dr.stoneとコラボして欲しいです。 恋アスグッズコラボしてくれ、
	アンケートが長すぎる
	入り口が1箇所しか無いことが分からず、Googleマップでの案内通り、敷地外周を一周しました。案内を徹底頂ければありがたいです。 無料というのはオカシイと思いますが、寄付というたちでも良いのではないかと。余裕を持った存続を考えて下さい。出来る限り協力して下さい。頑張ってください！
	バスが少なく不便
	駐車場の案内をもう少し分かりやすくして欲しかった。 サイエンスバスを利用しました。バスを降りると正面がサイエンス(略)なのはわかりましたが地質標本館へどうやって行けば良いのかわかりにくかったです。ちょうど他に歩いている人がいなかったため勝手にそれっぽい方向に行ってしまう不安でした。研究者施設なので間違えて立ち入り禁止区域に入ったらどうしようかと思いました。ミュージアムグッズがあるのは館内に入ってから知ったのでちょっと記念のお土産が買って嬉しかったです

4. 来館者動向と今後の対応

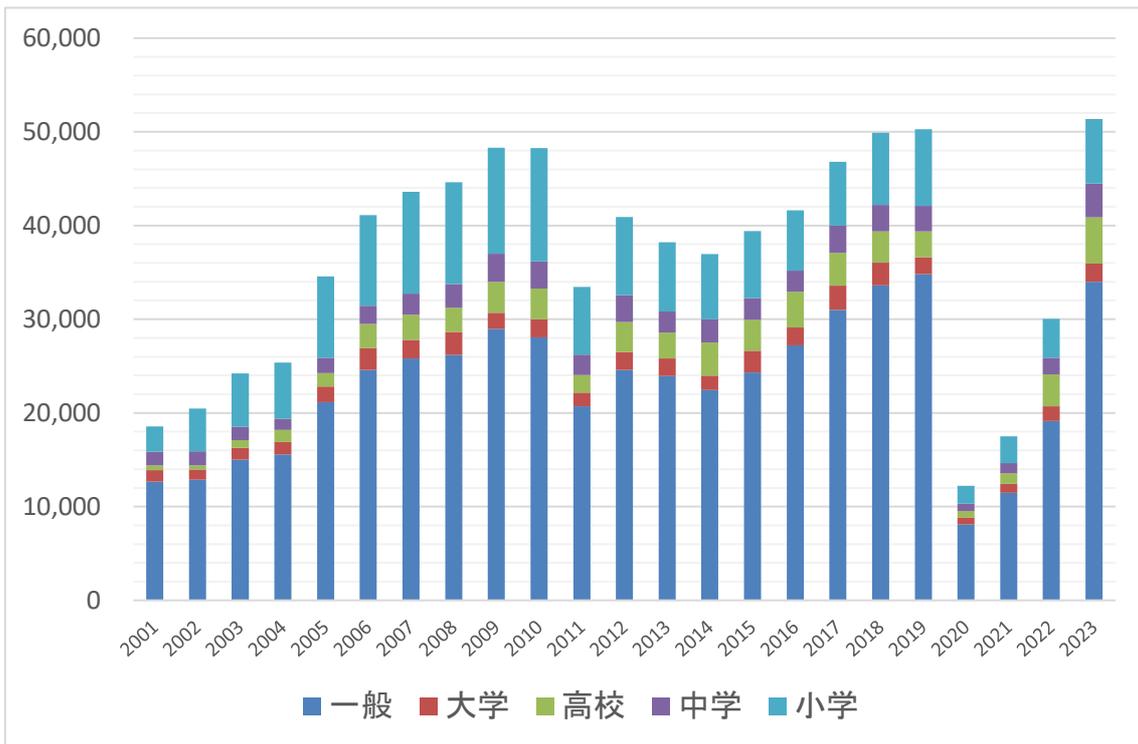
地質標本館受付では、継続的に来館者の統計を取っている。2023年度のデータを第11～16図に示す。

2023年度はコロナの行動制限が解除され、イベント等も行うことが出来た。夏休みに開催していたイベントも再開し、来館者数も5万人を越え過去最高となった。業種別で伸びているのは中高校生の団体で、小学生は依然として減少傾向である。

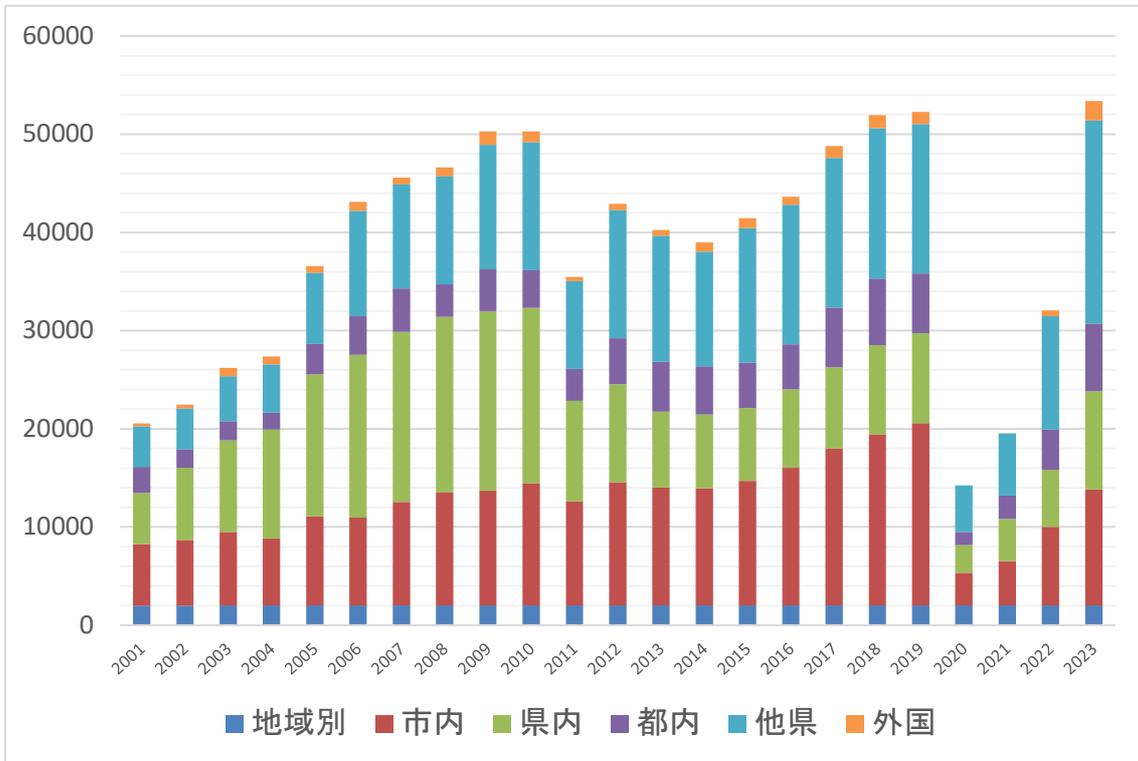
地域別ではコロナ前と比べ他県の数が大きく伸びている。都内・県内に大きな変化はないが、つくば市内の来館者数が回復していない。外国からの来館者は2022年度から戻ってきているが以前ほど回復してはいない。

全体の職種別団体来館者数(第13図)を見ると、一般団体と高校団体が約35%で最多、中学校団体が約20%で3番目となっているが、職種別団体来館者数(県内)(第14図)では一般団体が約63%となっていて、高校団体が約1%と最少となっている。先のアンケート回答の居住地でもつくば市内の減少が表れていたが、職種別団体来館者数で高校団体が1位でありながら、職種別団体来館者数(県内)(第14図)では最低という結果となった。県外では高校の修学旅行等で見学先として認知されているが、県内やつくば市内での認知度が低いことが考えられる。職種別個人来館者数(第15図)では、一般が最多で小学生が2位となっており、親子連れで行動する先として認知度が上がっている一方、親と行動が少なくなる中学生・高校生は、移動手段を持たないためか減少傾向である。また、学校行事での行先として、高校生には活用してもらっているが、中学生と小学生に活用されていないと思われる。

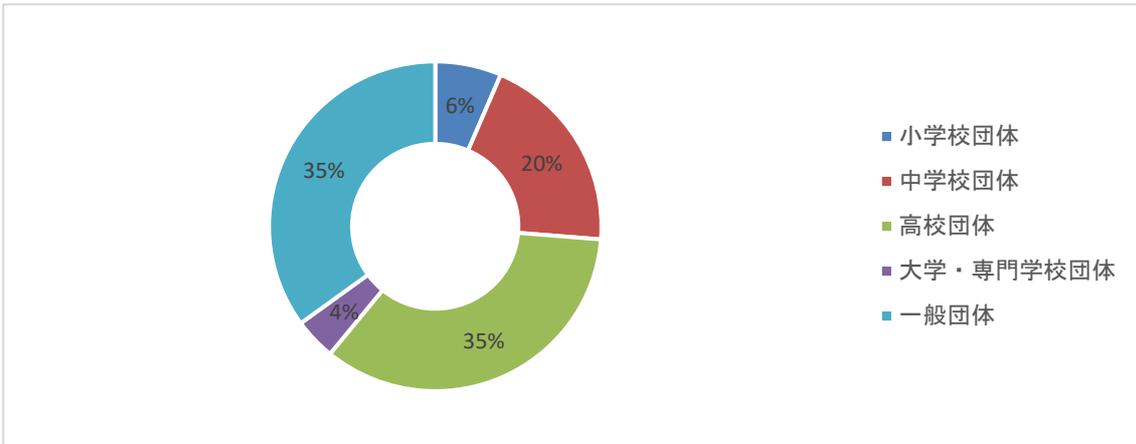
来館回数(第16図)については2～5回が約16%、それ以上の約4%と合わせて約20%(人数にして約1万人)の方に複数回足を運んでいただいている。この結果は喜ばしいことであるが、同時に今後リピーターに向けた展示内容の更新も検討する必要がある。また、ミュージアムショップ関連のアンケート回答が多いことから、地質標本館らしいミュージアムグッズを充実させていくことも重要と考える。



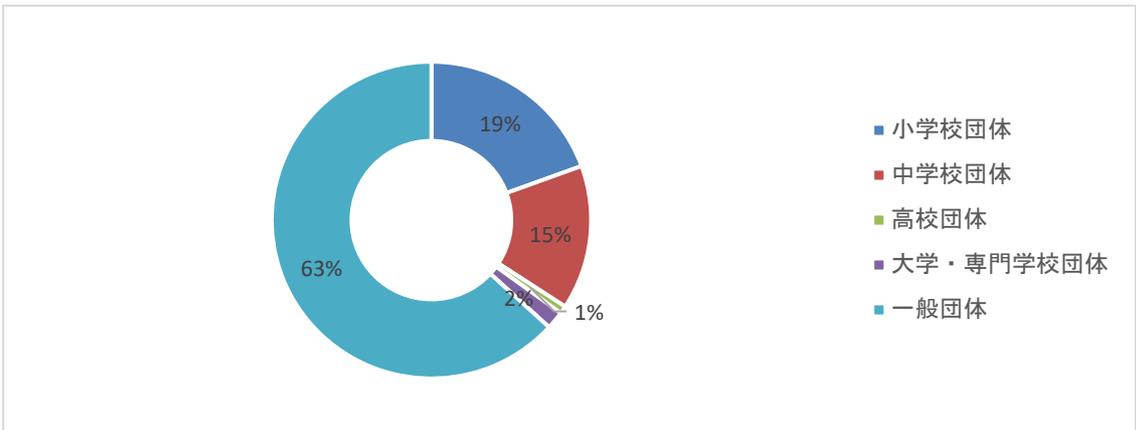
第 1 1 図 入館者数総計推移 (職種別)



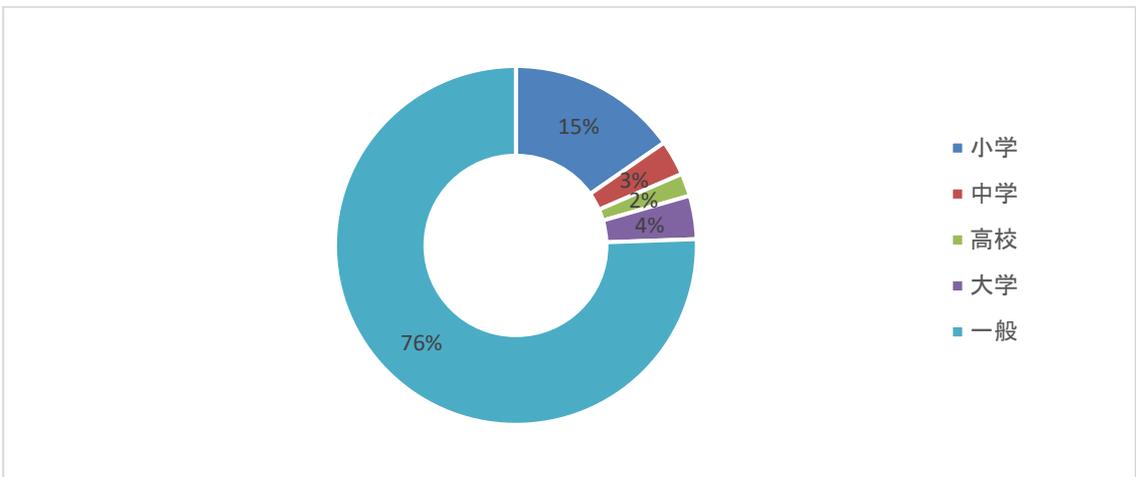
第 1 2 図 入館者数総計推移 (地域別)



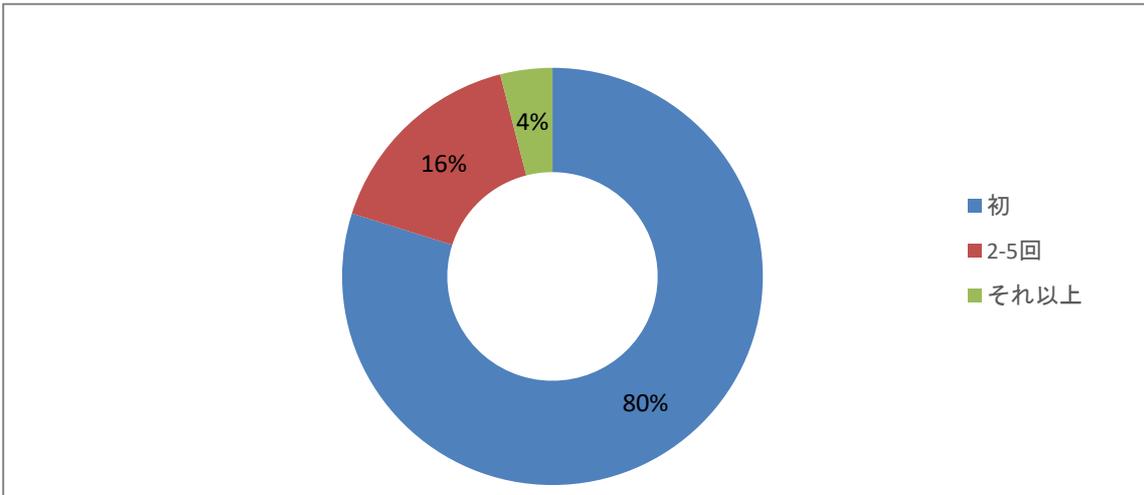
第 1 3 図 2023 年度職種別団体来館者数（全体）



第 1 4 図 2023 年度職種別団体来館者数（県内）



第 1 5 図 2023 年度職種別個人来館者数



第16図 来館回数

5. おわりに

本報告では2023年度のアンケートを基に分析した。

今後も地質標本館で実施するアンケート内容は、社会ニーズの把握とGSJ全体のアウトリーチ活動に対する満足度を計る指針とすることを念頭に置き、引き続き地質情報基盤センター地質標本館室運営グループにより継続的かつ定期的に報告する。これら来館者からの直接的な意見は、GSJのアウトリーチ活動のPDCAサイクルを動かしていくための参考資料として活用しつつ、地質標本館の運営に反映していく予定である。

文献

地質情報基盤センター（2016a）地質標本館の来場者アンケート分析（2007年～2015年度夏展まで）。GSJ技術資料集 No.5, AIST15-G00002-5
https://www.gsj.jp/data/comprep/GSJ_ComRep_05_2016.pdf

地質情報基盤センター（2016b）地質標本館の来場者アンケート分析（2015年度後半：秋～冬の特別展）。GSJ技術資料集 No.6, AIST15-G00002-6
https://www.gsj.jp/data/comprep/GSJ_ComRep_06_2016.pdf

地質情報基盤センター（2017）地質標本館の来場者アンケート分析（2016年度）。GSJ技術資料集 No.8, AIST15-G00002-8
https://www.gsj.jp/data/comprep/GSJ_ComRep_08_2017.pdf

地質情報基盤センター（2018）地質標本館の来場者アンケート分析（2017年度）。GSJ技術資料集 No.10, AIST15-G00002-10
https://www.gsj.jp/data/comprep/GSJ_ComRep_10_2018.pdf

地質情報基盤センター（2019）地質標本館の来場者アンケート分析（2018年度）。GSJ技術資料集 No.11, AIST15-G00002-11
https://www.gsj.jp/data/comprep/GSJ_ComRep_11_2019.pdf

地質情報基盤センター（2020）地質標本館の来場者アンケート分析（2019年度）。GSJ技術資料集 No.12, AIST15-G00002-12
https://www.gsj.jp/data/comprep/GSJ_ComRep_12_2019.pdf

地質情報基盤センター（2023）地質標本館の来場者アンケート分析（2020～2022年度）。GSJ技術資料集 No.13, AIST15-G00002-13
https://www.gsj.jp/data/comprep/GSJ_ComRep_13_2020-22.pdf

森尻理恵・吉田清香・朝川暢子・下川浩一・奥山康子・佐藤隆司・高橋 誠・酒井 彰・須藤 茂・利光誠一（2015）地質標本館来館者アンケート結果概報（2007-2014）。GSJ地質ニュース, 4, 346-352.

森尻理恵・朝川暢子・下川浩一・奥山康子・佐藤隆司・高橋 誠・酒井 彰・須藤 茂・利光誠一・菅家亜希子・吉田清香・中山 淳・常木俊宏・小賀野功（2016）地質標本館来館者アンケート結果概報（2015 年度）. GSI 地質ニュース, **5**, 377-381.

森尻理恵・谷島清一・朝川暢子・下川浩一・佐藤隆司・高橋 誠・酒井 彰・利光誠一・菅家亜希子・中山 淳・常木俊宏・小賀野功・川鈴木宏（2017）地質標本館来館者アンケート結果概報（2016 年度）. GSI 地質ニュース, **6**, 268-276.

辻野 匠・谷島清一・朝川暢子・下川浩一・佐藤隆司・高橋 誠・酒井 彰・利光誠一・中山 淳・常木俊宏・五十嵐幸子・川鈴木宏・利光誠一・藤原 治（2018）地質標本館来館者アンケート結果概報（2017 年度）. GSI 地質ニュース, **7**, 239-248.

地質調査総合センター技術資料集 14

地質標本館の来場者 アンケート分析

(2023 年度)

2025 年 4 月

国立研究開発法人 産業技術総合研究所 地質調査総合センター 地質情報基盤センター
〒305-8567 茨城県つくば市東 1-1-1 中央事業所 7 群

【執筆・集計担当】 武井勇二郎・藤原智晴・小川 浩・朝川暢子
瀬口寛樹・福田和幸・森田澄人

【レイアウト担当】 朝川暢子

【問い合わせ】 <https://www.gsj.jp/inquiries.html>

本報告書は産業技術総合研究所地質調査総合センターの組織著作物です。

「政府標準利用規約（第 2.0 版）」準拠



ともに挑む。つぎを創る。



産業技術総合研究所 地質調査総合センター
〒305-8567 茨城県つくば市東 1-1-1 中央事業所 7 群
<https://www.gsj.jp/>

AIST15-G00002-14